



『 C K D (慢性腎臓病) とは 』

糖尿病性腎症、I g A腎症などの原疾患に関らず、尿たんぱくが出ているなどの腎疾患の存在を示す所見がある。または、中等度以上の腎臓機能低下($GFR < 60$)のいずれかが3ヶ月以上持続している状態と定義されています。

性別、年齢、血性クレアチニン値から推算されるGFR(糸球体濾過量)をeGFRとして計算しCKDの段階を予測する指標として使用します。現在、この計算結果は本会の人間ドック、巡回健診の検査結果に報告しています。

健診で「尿たんぱく陽性」と指摘されても自覚症状が無いため多くの場合、放置されている現実があります。CKDが重症化し腎臓の人工透析導入となる前に心筋梗塞や脳卒中などを合併症が発症するという報告もあります。

生活習慣病に関連するすべての疾患は腎臓病に関係があることもわかっています。CKD予防には生活習慣の改善が重要なキーであり、早期発見し、専門医を受診することで進行を抑えられる病気でもあります。

健診結果を上手に生活に生かしていただき、生活習慣病の予防・早期発見・早期治療に役立てていただきたいと願います。



鹿児島県厚生連
中央検査室(臨床検査)
日高 好博